

アレを求めて島を徘徊!? 離島で働くということ

ライター 秋枝ソーデー由美

(九一三字)

profile

あきえだソーデーゆみ 山口県下関市出身 東京都新島村在住。フリーランスの編集ライターとして、国内外を駆け回る。二〇一〇年、二〇一五年、結婚を機に伊豆諸島の新島に移住し、現在は島と東京を行き来しながら活動を続けている。著書「真夜中とタマネギとニューヨーク」ほか。

仕事の発注受注から納品までをネット上で行うクラウドソーシングや、職場外で会社の業務を行うリモートワークが広がりを見せています。こうした「場所に縛られない働き方」が浸透すれば、離島で同じ仕事を続けながらの生活も夢ではありません。島にとっても移住者や来島者が増え、島が活性化される絶好のチャンスです。私自身も、そうした働き方を目指す一人。都心の離島、新島に暮らしながら島内外からの依頼を請け、東京と島を行き来しながら仕事をしています。島から朝一番の飛行機に乗れば、午後出勤や都内での打ち合わせも可能。離島とはいえ東京都なので、宅配便や郵便も都内と同料金で送れます。そう考えれば十分リモートワークできる環境なのですが、二つ誤算があ

りました。それは「ネット環境がバツグンに悪い」こと。そして「想像以上に海が荒れる」ということ。

総務省の「平成二八年度版情報通信白書」によると、光ケーブルなどの超高速ブロードバンド利用可能世帯率は九九・九八パーセントで、全国どこでも高速回線が使える状態です。ところが新島は全国で〇・〇二パーセントしか存在しない「超高速回線のないネットヘキ地」。回線はADSLのみで、ネット利用者が多い週末や観光シーズンには下り速度が1Mbpsを下回る日も……。

トやオンライン会議も時間帯を選べば問題ありません。急いでネットをつなぎたい場合は、回線が速いスポットを求めて島内をウロウロ。近隣の島から電波が届くビーチへ出かけて、高速電波をキャッチ！なんて裏ワザもあります。それでもダメならいさぎよくデジタルを捨て、郵便や宅配便でデータを発送！一番怖いのは天候が荒れて船が欠航し、荷物が送れない場合です。そんなときは飛行機で本土へ行く知人を探して荷物を託すしかない（強引！）。

なんだか涙ぐましい話ですが、「あれこれ知恵を働かせるのもクリエティブでおもしろい！」と言い聞かせる毎日。新島に光回線が開通する予定の二〇一八年夏まで、このネット秘境を楽しみたいと思います。

ショート・コラム 1

おいしいスイカの 見分け方

(二〇五字)

スイカの熟れ具合を音で見分けるのは、じつは至難の業。まして店舗の商品をやみくもにたたくのも気が引ける。

そんなときのチェックポイントは三つ。まずは模様を観察。縦の模様がかつきりしており、色の薄い部分が膨らんでいれば熟れている証拠。その上で、ツルの付け根がくぼんでおり、おしり側のヘソが五円玉程度になっているものがオススメだ。ただ、ツルが枯れているものは熟れ過ぎている可能性があるので注意を。

ショート・コラム 2

皆既日食が アメリカを横断

(二〇八字)

二〇一七年八月二一日（日本時間二二日）には、アメリカ西海岸のオレゴン州からサウスカロライナ州に抜けるルートで、皆既日食を観測することができる。

中でも、皆既日食が最大になるケンタッキー州のホプキンズビル郊外や、太陽が隠れている時間がいちばん長いイリノイ州マリオン郊外は多くの人でにぎわいそうだ。

今回の日食は多くの地域で観測できるが、日本は日の出前の時間なので残念。次に日本で皆既日食が見られるのは二〇三五年九月二日だ。